

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
♪ジョイコン NEWS♪
第65号(2024年6月)
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第68回ジョイフルコンサートが終わりました。
シュベルトの大曲ばかりのプログラムで、とても素晴らしい演奏でした。
特にピアニストの兼重稔宏さんがベーゼンドルファーのピアノを持ち込まれて演奏してくださり、音のまろやかさがさらに印象的でした。
兼重さんがベーゼンドルファーについて、説明してくださいました。
なんとピアノはすべて手作りで、職人さんの中に元ウィーン少年合唱団の団員の人がいるそうで、響きにこだわったピアノづくりをしているのだとか。
このような機会がありましたことをとても嬉しく思います。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第65号)をお届け致します。

【もくじ】

-
- 【1】次回コンサートのご案内
◆第69回コンサート
 - 【2】今後の予定(先取り情報)
◆第70回コンサート
 - 【3】楽器よもやま話~ハーブ
 - 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内(予約受付中)

★☆☆第69回コンサート☆☆☆
◇2024年7月21日(日曜日)14時開演
◇出演:佐藤杏樹(ハーブ)、吉田杏奈(フルート)、金井清(クラリネット)、犬嶋仁美(ヴァイオリン)、石坂淑恵(ヴァイオリン)、宮武佑果(ヴィオラ)、松浦健太郎(チェロ)
◇プログラム(予定)
〈第1部〉ハーブの音色による世界紀行! 西欧、東欧、日本そして南米へ
◆ピエルネ:ハーブのための奇想即興曲(フランス)
◆ハチャトゥリアン:ハーブのための東洋風舞曲(アルメニア)
◆黛敏郎:六段(日本)
◆グリーディ:ハーブのための古いソルツィーコ(スペイン)
◆ピアソラ:『タンゴの歴史』より「カフェ1930」「ナイトクラブ1960」(アルゼンチン)
〈第2部〉楽器の仕組みと楽器開発の歴史を知ろう! 20世紀初頭のパリへ
◆ドビュッシー:独奏ハーブと弦楽合奏のための「神聖な舞曲と世俗的な舞曲」
◆ラヴェル:独奏ハーブとフルート、クラリネット、弦楽四重奏のための「序奏とアレグロ」
◇料金:大人2,000円、高校生以下1,000円
◇会場:横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第69回ジョイフルコンサートは、
『佐藤杏樹 ハーブ・リサイタル~ハーブでの世界紀行』と題して、お届けします。

佐藤杏樹さんからメッセージが届いています

ジョイフルコンサート出演、とても光栄です。
ひたすら優雅な印象のハーブですが、実は表現の引き出しが多く、各国の音楽とも相性抜群!
楽器の仕組みも機械のよう!
意外性が面白い楽器です。
多彩な音色との共演も楽しんでいただけたら嬉しいです。
(佐藤杏樹)

次回のジョイフルコンサートはハーブと様々な楽器のアンサンブルです。
華やかなステージになりそうですね。どうぞお楽しみになさってください。

☆ピエルネ

ピエルネという作曲家の名前は今回初めて聞きました。
調べて分かりましたが、フランスの作曲家、オルガニスト、指揮者です。
ドビュッシー、ラヴェルと同年代の作曲家で、本当はもっと知られていても良いのではないかという声も多いです。

ロレーヌ地方に生まれますが、普仏戦争でドイツに併合されたためパリに移住しました。
父は声楽の教師、母もピアノ教師の音楽一家という恵まれた環境に育っています。
パリ音楽院に入学し、作曲をマスネにオルガンをフランクに師事しました。

そのためでしょうか？
フランクの後任としてサント=クロティルド教会のオルガニストを務めています。

19歳でローマ大賞を受賞しました。
ちなみにこのローマ大賞はラヴェルが何度も挑戦していますが、残念なことにラヴェルは受賞できませんでした。

ローマ大賞は由緒正しく、ルイ14世によって1663年に創設された奨学金付留学制度で、ローマが留学先に決められました。
1968年に廃止されましたが、奨学金制度として現在は実質復活しています。
現在でも奨学生はローマのボルゲーゼ庭園内のメディチ荘に寄宿するのだそうです。
ヨーロッパの貴族気分が味わえそうですね。

ピエルネはオペラ、バレエ音楽、協奏曲、管弦楽など様々な曲を書いています。
ただ生前はどちらかと言うと、指揮者として有名でした。
コンセール・コロヌ（1873年に創設されたパリのオーケストラ）の副指揮者となり、1910年から1934年までは同楽団の首席指揮者を務めて、師であるフランクをはじめ、同時代のフランス音楽を積極的に演奏して紹介しました。
ドビュッシーの《イペリア》、《映像》、《遊戯》、《ピリティスの歌》、《カンマ》、およびラヴェルの《海上の小舟》、《ツィガーヌ》、ルーセルの《春の祭典のために》、さらにはストラヴィンスキーの《火の鳥》パリ初演（1910）など、今でも有名な曲の初演を行っています。

☆ハーブのための奇想即興曲

ハーピストの Provincialli-Celmer 夫人へ献呈する曲として書かれました。
22歳の時の作品です。
ハーブのためのとても優雅で綺麗なソロ曲です。

ピエルネ自身がピアノ独奏曲 (Op. 9bis)、ハーブ独奏用のコンサートヴァージョン (Op. 9ter) も作っています。

ABAの典型的な三部形式からなっています。
カデンツァ風の序奏に続く主部Aはアレグレット・モデラート、8分の6拍子、変イ長調です。
中間部Bはアレグロ・マ・ノン・トロッポ、8分の3拍子、ハ短調です。
各部のつながりに短いカデンツァが入っています。

暑い夏にとっても涼しげに聴こえる曲だと思います。
楽しみに待ちたいです。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

☆☆第70回コンサート☆☆

◇2024年9月15日（日）

◇出演：「フランス六重奏」知久翔（フルート）、吉村結実（オーボエ）、木主里絵（クラリネット）、モリス真登（フレンチバソン）、加藤智浩（ホルン）、有本紘子（ピアノ）

◇プログラム

◆ブルーメル：六重奏曲 作品45

◆シュレーダー：六重奏曲 作品36

◆ダンディ：サラバンドとメヌエット 作品72

◆プーランク：『三つのノヴェレツテ』より「第1番」（内田祥子編）

ほか

◇予約受付開始：2024年7月22日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】楽器よもやま話～ハープ

ハープの起源は狩猟に使われる弓であるといわれ、最も古いハープの記録は紀元前4000年頃（日本では縄文時代）のエジプトにまで遡るそうです。そこから楽器の形や仕組みもどんどん進化していきます。

10世紀ころからアイルランドやウェールズの吟遊詩人によってヨーロッパ大陸に広まっていきます。現在のアイリッシュ・ハープ、ケルティック・ハープの原型です。アイルランドの国章にハープが描かれていますし、ギネスビールにも使われています。

このころのハープは全音階の楽器で、ピアノでいえば白鍵しかなく、半音が出せませんでした。16世紀頃からbや#の調が増え、転調の必要からさまざまな工夫がされるようになります。

1720年にペダルが7つついた、シングルアクション・ペダルハープの原形が完成します。これがウィーンの宮廷に紹介され、さらにフランスに持ち込まれて次第にもてはやされる楽器となっていきます。この流行に輪をかけたのが1770年にフランスの王太子妃となったマリー・アントワネットで、自らハープを弾いて宮廷、サロンを中心にハープはなくてはならない楽器となります。

さらにピアノ製作者として知られるフランスのセバスチャン・エラールは1811年、現在のグランドハープの原形となるダブルアクション・ペダルハープを発表します。ペダルが3段階になっていて、フラット(b)⇄ナチュラル(h)⇄シャープ(#)と全ての音が出せるようになったのです。このハープの完成で、あらゆる調の演奏が可能になったばかりでなく、1オクターブの12音中の9音に異名同音ができるという副産物を生み出しました。ここからハープ独特のグリッサンドが可能となりました。

エラールのライバルであるピアノメーカー、プレイエル社の社長であったギュスターヴ・リヨンは、ピアノでいえば白鍵と黒鍵にあたる弦を二列にして途中で交差したクロマティック・ハープを1896年に発表します。

プレイエル社はクロマティック・ハープを普及させるため、ドビュッシーに依頼して作曲されたのが『神聖な舞曲と世俗的な舞曲』です。（1904年）これに対抗してエラール社がラヴェルに依頼して作曲されたのが、ダブルアクション・ペダルハープのための『序奏とアレグロ』です。（1905年）

ところがプレイエルの新方式は普及せず、エラールのペダル式ハープが生き残ることになります。ペダル式ハープと奏法に落ち着くのは1936年ごろのようです。現在ではドビュッシーの曲もペダル式のハープで演奏されています。7本ものペダルを操るのは大変そうですが、これを上回る方式を編み出すのも難しい、ということなのでしょう。クロマティック・ハープの実物は、「浜松市楽器博物館」で見ることができるそうです。

さて、今度の佐藤杏樹さんのリサイタルでは、ハーブについて楽器の仕組みやどのように開発されてきたのか、解説があるでしょう。
そしてプログラム後半で、ハーブの熾烈な開発競争の最中に作曲されたドビュッシーの『神聖な舞曲と世俗的な舞曲』とラヴェルの『序奏とアレグロ』が演奏されます。
解説とともに素晴らしい演奏をどうぞお楽しみください。(でくのぼう)

【4】コンサートのアンケートから

前回のジョイフルコンサート（5月19日公演）『夭逝の天才 フランツ・シューベルトに捧ぐ』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」では、「大変良かった」83%、「良かった」11%と大変好評でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、三人の演奏に感動し、大満足とのご感想がたくさん寄せられました。またベーゼンドルファーについて『暖かい音色に魅了された』『生で聴く幸運に感謝』など多くのコメントがありました。

「運営について」では、『演奏中に携帯が鳴った』『演奏中に奇声が聞こえた』『飴を取り出す音が気になった』などのマナーに関する苦情が複数件寄せられました。

頂いたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き運営の改善をして参ります。
アンケート回収数:36（回収率17%）

【編集後記】

5月20日から6月5日頃までの時期を24節気で「小満(しょうまん)」といいます。小満は「草木が周囲に茂り、満ち始める」の意で、立夏の次に当たります。農村部では、田植えが終わり、水田にやわらかな緑の早苗が揺れ、畑では麦が穂をつけ、豊かに実るころで、「麦秋」はまさに「小満」と重なる時季です。本格的な梅雨、そして本格的な夏が来る前の初夏の日々。小満はそうした時季です。心地の良いこの時季を、街や公園、海や山などで満喫したいものです。(お)

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■ 次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■ バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■ 配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
